

SAPPORO  
fieldsign  
handbook



# さっぽろ フィールドサイン ハンドブック

発行

札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課  
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目  
TEL 011-211-2879 FAX 011-218-5108

写真提供 NPO法人EnVision環境保全事務所  
札幌市定山溪自然の村  
札幌市円山動物園  
神 武海 氏



札幌市環境局環境都市推進部



## 「フィールドサイン」とは

足跡やフンなど、動物たちが生活している痕跡のこと。

札幌市は緑豊かな山々に囲まれており、その山々にはたくさんの野生動物が棲んでいます。このため、山菜採りやハイキングなどで山の中を歩いていると、たくさんのフィールドサインを見つけることができます。



## 種類と特徴

フィールドサインの種類と特徴がわかれば、そこにどんな動物が棲んでいるのかわかるようになります。

中には、ヒグマのフィールドサインのように、すぐに引き返したほうが良いということを教えてくれるものもあります。

このハンドブックは、札幌近郊で見られる  
野生の哺乳動物たちのフィールドサインをまとめたものです。

このハンドブックを片手に、  
札幌に棲むさまざまな野生動物の営みを感じてください。

## もくじ

エゾヒグマ	4-5
エゾシカ	6-7
エゾタヌキ	8
キタキツネ	9
リスのなかま	10
エゾユキウサギ	11
ノネズミのなかま	11
アライグマ	12
アメリカミンク	13
ホンドテン	13
足跡いろいろ	14-15



# エゾヒグマ

(クマ科)  
*Ursus arctos yezoensis*

- **体長**  
オス 約2m  
メス 約1.5m
- **体重**  
オス 約150~400kg  
メス 約100~200kg

雑食性で、季節に合わせてフキ、ウド、アリ、ヤマブドウ、ドングリなどを食べる。

## 食べ跡



茎の一部をかじって引きちぎるように食べるので、繊維の一部が残る。



木の根元などを掘り起こして、アリやハチの幼虫やさなぎを巣ごと食べる。



木に登ったり枝をたぐり寄せて果実を食べるので、枝が折れることが多い。



ヒグマの出没が見られる地域でトウモロコシやスイカなどを育てる場合は、電気柵で被害を予防する必要がある。

## フン



大きなものは径7~8cmの楕形で30cmくらいになる。食べたものがそのままの形で出てくることが多く、不快な臭いはほとんど無い。



## 後ろ足 足跡



後ろ足の跡が前足の跡のすぐ前につくことが多い

## 前足

## 爪跡



指(爪)の幅に合わせて跡が並んで残る。

エゾシカの角研ぎ跡と見比べてみよう。

山を散策中にこれらのフィールドサインを見かけたら、すぐに引き返しましょう。





# エゾシカ

(シカ科)  
*Cervus nippon yesoensis*

● **体長**  
頭胴長 約140~180cm

● **体重**  
オス 約90~140kg  
メス 約70~100kg

草食性。野草や木の新芽、牧草など、幅広い種類の植物を食べる。冬にはササや樹皮なども食べる。

足跡



前足と後ろ足はほぼ同じ形状で、2つの大きな蹄と小さな副蹄がある。

角研ぎ跡



エゾヒグマの爪跡と見比べてみよう。

大きな蹄だけが足跡として残ることが多い。また、前後の足跡が重なって見られることも多く、ヒグマの足跡と間違われることもある。

エゾシカが首を上下に動かして角を研ぐため、長く不規則に傷跡が残る。



食べ跡

フキ



茎を噛み切って食べ、葉を残す。

エゾヒグマの食べ跡と見比べてみよう。

ヒレハシソウ



樹皮



食料が不足しがちな冬は樹皮を食べることも多い。

庭木(イチイ)



届く高さまでの葉を食べつくしてしまうので上部だけ枝葉が残る。

フン



植物の繊維が均一にすり潰され、径1.5cm程度の俵形や球形になることが多い。粒状のフンが寄り集まって大きな塊になったり、消化不良のためペースト状になることがあり、ヒグマのフンと間違われることもある。

エゾヒグマのフンと見比べてみよう。





## エゾタヌキ

(イヌ科)

*Nyctereutes procyonides albus*

● **体長**

頭胴長 50~60cm  
尾長 約15cm

● **体重**

3~5kg

雑食性で、ネズミ、カエル、鳥類、卵、魚類、昆虫類、ミミズ等の小動物や、果実等の植物質を食べる。

イヌの仲間であるタヌキは、イヌによく似た肉球が見られる。

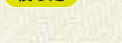
前足



足跡



後ろ足



タヌキの足跡は、キツネと比較してやや横に広がる。

フン



エゾヒグマのフンと見比べてみよう。



歩き方はフラフラと蛇行することが多い。

径2~3cmの俵形。雑食性のため非常に不快な臭いがある。また、同じ場所に繰り返しフンをする習性がある。「溜めフン」と言われるこのフンは、パッと見大きく見えるため、ヒグマのフンとよく間違われるが、新旧のフンが入り混じっていることや、不快な臭いがあることから区別できる。



## キタキツネ

(イヌ科)

*Vulpes vulpes schrencki*

● **体長**

頭胴長 60~75cm  
尾長 約40cm

● **体重**

4~7kg

雑食性で、ノネズミ類が主要な食物。この他魚類、鳥類、爬虫類、昆虫類、果実や農作物、人家の残飯などを食べる。

キツネにもイヌによく似た肉球が見られる。

前足



足跡



後ろ足



フン



まっすぐ直線的に歩行することが多い。



径1.5~2cmの俵形で、タヌキのような溜めフンは見られない。キタキツネのフンには、エキノコックスという寄生虫の卵が付着している場合がある。



キタキツネのフンを見かけても絶対に触らないようにしましょう。

# リスのなかま (リス科)



## エゾリス

*Sciurus vulgaris orientis*

- **体長**  
頭胴長 22~27cm  
尾長 16~20cm
- **体重**  
300~410g

## エゾシマリス

*Tamias sibiricus lineatus*

- **体長**  
頭胴長 12~15cm  
尾長 11~12cm
- **体重**  
71~116g

リスの仲間は雑食性で、木の実などの植物質や昆虫のほか、鳥のひなや卵を食べることもある。

### 足跡 (エゾリス)



後ろ足

前足

左右の足を同時について、飛ぶように走る。



### 食べ跡



クルミ

リスのなかまは、クルミを半分に割って中身を食べる。



松ぼっくり

リスやネズミのなかまが松ぼっくりを食べた跡は、エビフライのようになる。



径が数mm~1cm程度の楕形や球形になる。



# エゾユキウサギ

(ウサギ科)

*Lepus timidus ainu*

- **体長**  
頭胴長 49~58cm  
耳長 7~8cm
- **体重**  
1.6~2.9kg

草食性。植物の葉、茎、芽等を食べ、積雪期には草の根や樹皮も食べる。

### 足跡



後ろ足

前足



進行方向

### 食べ跡



斜めにスパッと切れる。

### フン



1~1.5cm程度の球形。

CLETHRIONOMYS RUFOCANUS BEDFORDIAE

# ノネズミのなかま (ネズミ科)

## エゾヤチネズミ

*Clethrionomys rufocanus bedfordiae*

- **体長**  
頭胴長 約11~12.6cm  
尾長 約4.4~5.6cm
- **体重**  
38~50g

主に草食性だが、まれに動物質の食料も食べる。



### 足跡



進行方向

両足の間に尾の跡が残る。

### クルミの食べ跡



リスの食べ痕と見比べてみよう。

ノネズミのなかまは、クルミの殻に丸く穴を開けて中身を食べる。

### フン



径が2~3mm程度の楕形。



特定外来生物※1

## アライグマ

(アライグマ科)

*Procyon lotor*

- **体長**  
頭胴長 40~60cm  
尾長 20~40cm
- **体重**  
4~10kg

ペット等として持ち込まれたアライグマが野外に捨てられたり、逃げ出したりして野生化した。アライグマは日本の気候に順応し、農作物に被害を与え、生態系を破壊する恐れがあるため、外来生物法により特定外来生物に指定されている。

前足



足跡

前足は幼児の手のひらとよく似た足跡になる。



後ろ足



食べ跡



スイカの皮に丸く穴を開けて中身をくりぬいて食べる。



トウモロコシの食べ痕は人が食べた跡ようになる。



タヌキのように溜めフンをする。



フン



特定外来生物※1

## アメリカミンク (イタチ科)

*Neovison vison*

- **体長**  
頭胴長 36~45cm  
尾長 30~36cm
- **体重**  
0.7~1kg

毛皮生産のために養殖していたものが野生化した。肉食性で、ノネズミ類、鳥類、甲殻類、魚類、両生類などを食べる。



国内由来の外来種※2

## ホンドテン (イタチ科)

*Martes melampus melampus*

- **体長**  
頭胴長 約45cm  
尾長 約20cm
- **体重**  
約1.1~1.5kg

毛皮生産のために養殖していたものが野生化した。雑食性で、ノネズミ類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、土ミミズ、果実類などを食べる。

北海道に生息するイタチ科の動物は、アメリカミンク、ホンドテンのほか、エゾクロテン、イイズナ、オコジョなどがあるが、これらを足跡の形から区別することは難しい。

足跡



進行方向



フン



北海道の環境に定着したアメリカミンクやホンドテンが、もともと北海道に生息していたエゾクロテンの食料やすみかを奪ってしまったり、ホンドテンがエゾクロテンと交雑したりすることで、純粋なエゾクロテンが少なくなっているといわれています。

※2「国内由来の外来種」

在来種であっても、日本国内のある地域から、もともとなかった地域に持ち込まれた場合には、「外来種」となり、もともとからその地域にいる生物に影響を与える場合がある。このような「外来種」のことを「国内由来の外来種」と呼んでいる。

※1「特定外来生物」

生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって規定された外来生物。

アライグマ・アメリカミンクを見かけたら、札幌市環境局環境共生担当課まで。

# 足跡いろいろ



エゾヒグマ



エゾシカ



エゾキツネ



エゾタヌキ

エゾリス

アライグマ

ヒト

エゾユキウサギ

ネズミ科

イタチ科

参考文献

エコ・ネットワーク 編(1994) 『北海道 野生動物の痕跡を読む』 北海道新聞社  
 藪内正幸 著(1991) 『野や山にすむ動物たち 日本の哺乳類』 岩崎書店  
 阿部 永 監修(2008) 『日本の哺乳類[改訂2版]』 東海大学出版会  
 五箇公一 監修(2016) 『外来生物ずかん』 ほるぷ出版  
 小宮輝之 著(2010) 『日本の哺乳類 フィールドベスト図鑑 増補改訂版』 学研教育出版